

令和3年度 施設長会（8月） 会議資料  
(川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会)

— 議 題 —

- 1 各プロジェクト委員会の進捗状況について …資料1
  
- 2 施設長会での情報交換について …別添資料1  
「本日のテーマ：新型コロナウイルスへの対応について」※全議題終了後に行います。
  
- 3 神奈川県社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会
  - (1) 課題別プロジェクト会議（災害・人材確保・介護報酬改定）について …資料2、別添資料2
  - (2) 第56回関東ブロック老人福祉施設研究総会・第19回かながわ高齢者福祉研究大会合同大会について …資料3
  
- 4 その他
  - ・ShareSmile かわさきについて …別添資料3
  - ・人材バンク、総合研修センターより …別添資料4

# 各プロジェクト委員会の進捗状況について

## 1 災害プロジェクト委員会

### (1) 委員会等実施状況

第1回 / 8月 5日 (木) 10時～

### (2) 協議概要

#### ①災害に関する研修会等の開催について

時期：10月～11月

方法：オンライン（リアルタイムまたは一定期間動画配信）

講師：長野県社会福祉協議会または長野県高齢者福祉事業協会

テーマ 令和元年台風19号での被災状況及び団体として行った支援について

参考 災害現場に福祉の力を～長野モデルから被災施設支援のしくみを問い直す～

<http://www.nsyakyo.or.jp/news/2020/12/post-175.php>

#### ②施設間連携及び情報共有について

既に取り組んでいる他都市の取組状況も参考にし、

川崎市内の災害を想定した訓練を行いながら施設間連携について検討する。

【情報伝達訓練に伴う情報交換会】（詳細については、別紙参照）

日時：9月2日（木）15時～ ※14時～情報伝達訓練開始予定

内容 ① 全体会

② 情報交換 ※各区ごとにグループ分けを行う予定です

③ 全体会（振り返り）

※参加申込み状況（8/24 現在）

|     |      |
|-----|------|
| 川崎区 | 2 施設 |
| 幸区  | 1 施設 |
| 中原区 | 2 施設 |
| 高津区 | 2 施設 |
| 宮前区 | 2 施設 |
| 多摩区 | 3 施設 |
| 麻生区 | 2 施設 |

③ 応援職員の受入れマニュアルの作成について

災害プロジェクト委員会のメンバーで自施設に当てはめて作成したマニュアル（ひな形）を災害プロジェクト委員会でシミュレーション訓練を行う。

また、マニュアル（ひな形）作成にあたっては、被災地へ派遣されている職員や東日本台風で多くの職員・ボランティア等が駆けつけた「みやうち」の意見を参考に伺う。

【想定】

① すえなが 【福祉避難所（二次避難所）の運営に応援職員が来た】

② 生田まほろば 【自施設の職員のフォローに応援職員が来た】

④ 二次避難所（福祉避難所）の円滑な運営に向けた検討について

平成 30 年度に行った二次避難所（福祉避難所）のマニュアルに関する意見一覧について、所管課との情報交換を引続き行っていく。

(3) その他

- ・ 社会福祉施設・事業所の BCP 策定研修 …別添資料参照

**第 3 回実行委員会：**      月      日（    ）      時～ 会場：

---

※改めて、日程調整させていただきます。

3川社福施第174号  
3川老事協第48号  
令和3年8月17日

市内老人福祉施設 施設長 各位

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会  
施設部会 老人福祉施設協議会  
会 長 磯 野 利 男  
川崎市老人福祉施設事業協会  
会 長 成 田 哲 夫

災害時高齢者・障害者施設等情報共有システム（通称：E-Welfiss）を用いた  
情報伝達訓練に伴う情報交換会について（依頼）

この度、川崎市社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会及び川崎市老人福祉施設事業協会では、情報伝達訓練の機会をとらえ、情報交換会を実施することといたしました。

情報交換会は、新システム（E-Welfiss）について意見交換を行うとともに、災害時における各施設の課題を共有し、お互いに来ること「共助」を再考するための一助となることを目的とします。

つきましては、大変ご多用のところ誠に恐縮に存じますが、趣旨を御理解いただき、同封しております出欠連絡票により8月27日（金）までにFAXまたはメールにて御連絡くださいますようお願い申し上げます。

- 1 日 時 令和3年9月2日（木）15時～ ※14時～情報伝達訓練開始予定
- 2 方 法 オンライン（zoomを使用）
- 3 同封資料 (1) 開催要綱  
(2) 出欠連絡票

※ 情報伝達訓練については、川崎市健康福祉局より各施設に送付予定

※ 情報伝達訓練で使用されるシステム（E-Welfiss）を支障なく利用するための操作説明動画「**情報伝達訓練までに知っておくべき E-Welfiss の基本操作**」を限定公開しましたので御活用ください。詳細は、別紙を参照してください。

（お問い合わせ先）

福祉部 施設・団体事業推進課 担当：金子  
電 話 044-739-8717 / FAX 044-739-8737  
メール shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

# 災害時高齢者・障害者施設等情報共有システム（通称：E-WELFISS）を用いた 情報伝達訓練に伴う情報交換会 開催要綱

## 1 目的

令和元年度東日本台風では市内福祉施設にも被害を受け、毎年のように豪雨や地震による甚大な被害が発生しております。

本情報交換会では、今回新しく導入される災害時情報共有システムについて意見交換を行うとともに、災害時における各施設の課題を共有し、お互いに出来ること「共助」を再考するための一助となることを目的とします。

## 2 主催

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会 災害プロジェクト委員会  
川崎市老人福祉施設事業協会

## 3 日時

令和3年9月2日（木） 15時～ ※14時～情報伝達訓練開始予定

## 4 方法

オンライン（zoomを使用）

## 5 内容

- (1) 全体会
- (2) 情報交換 ※各区ごとにグループ分けを行う予定です
- (3) 全体会（振り返り）

## 6 参加対象

市内特別養護老人ホーム等の施設長、事務長、防災担当職員 等

## 7 問合せ先

社会福祉法人川崎社会福祉協議会 福祉部 施設・団体事業推進課

〒211-0053 中原区上小田中6-22-5 川崎市総合福祉センター6階

電話：044（739）8717 / FAX：044（739）8737

メール：shisetsu-dantai@csw-kawasaki.or.jp

**F A X 0 4 4 - 7 3 9 - 8 7 3 7**

送付先：川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設・団体事業推進課 宛

【8月27日（金）までにFAXまたはメールにてご連絡くださいますようお願いいたします。】

災害時高齢者・障害者施設等情報共有システム（通称：  
E-WELFISS）を用いた情報伝達訓練に伴う情報交換会

**出 欠 連 絡 票**

- 日時：令和3年 9月 2日（木）15時から ※14時～情報伝達訓練開始予定
- 方法：オンライン（zoomを使用）

**出席 ・ 欠席** します。

（どちらかを○で囲んでください。）

氏 名 \_\_\_\_\_

所 属 \_\_\_\_\_

—通信欄—

※システムに関する事、情報交換の中で話したい事項がございましたらご記入ください

【お問合せ先】 社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設・団体事業推進課 担当：金子  
〒211-0053 中原区上小田中6-22-5川崎市総合福祉センター6階  
TEL：044-739-8717 FAX：044-739-8737

## 「情報伝達訓練」に向けた E-Welfiss の操作説明動画について

令和3年9月2日に実施される「情報伝達訓練」に向けた E-Welfiss（災害時高齢者・障害者施設等情報共有システム）の操作説明動画を作成しました。

次のリンクから御視聴いただけます。

### <動画の内容>

川崎市健康福祉局担当職員による、「情報伝達訓練」までに知っておくべき E-Welfiss の基本操作の説明（14分34秒）

- 00分22秒：E-Welfiss へのログイン
- 01分17秒：ログイン完了の連絡
- 02分32秒：被害情報の登録（被害がある場合）
- 06分00秒：被害発生の連絡（被害がある場合）
- 08分06秒：被害情報の登録（被害がない場合）
- 10分00秒：施設情報の入力
- 12分10秒：連絡機能の使用例

### <動画へのリンク>

<https://youtu.be/xLKOkd8rocg>



スマホ（タブレット端末）の場合は、こちらの QR コードをスキャンしてください。

※ 動画は関係者のみによる視聴を前提に、限定公開に設定しています。

リンクの取扱いには、十分注意願います。

## 社会福祉施設・事業所のBCP策定研修（概要）

日時：2021年7月16日（金）10時～正午

方法：オンライン

講師：後藤至功（ごとうゆきのり）氏

佛教大学 福祉教育開発センター講師／特定非営利活動法人さくらネット理事

阪神淡路大震災（1995年）にて全壊被災、避難所・仮設住宅・復興住宅での生活を  
経験し、兵庫県社会福祉協議会へ入職 ※1995年～2005年

その後、佛教大学に通いながら東日本大震災・常総市水害・熊本地震・西日本豪雨  
九州豪雨等の被災地において支援活動を展開

◎【全施設共通】忙しい業務の中で、最低限、BCP策定で何をすればよいか

- ①（根拠をもって）災害の想定を決める ※最大規模を想定
- ②発生の季節と時間帯を決める ※一番厳しい時期（冬・夜間）を想定
- ③危険ゾーンと安心ゾーンを明らかにする
- ④基本方針と災害対策本部を整備する
- ⑤地域や関係機関と（1回くらいは）話し合いの場をもち、役割分担を決めておく
- ⑥利用者の名寄せ名簿を整備する

◎【入所施設編】忙しい業務の中で、最低限、BCP策定で何をすればよいか

- ①建物自体の安全点検を行う
- ②安全ゾーンへの誘導方法を決めておく
- ③備蓄物資を整備する
- ④当面のケア方針と内容を検討する
- ⑤外部支援者を含んだシフト体制を組む
- ⑥緊急搬送先と方法を決めておく
- ⑦福祉避難所の設置・運営方法を検討

（その前に・・・国の流れや過去の災害等から）【国の流れ】

○令和3年度介護報酬改定でBCP策定が義務化（3年間の経過措置）

→ 厚生労働省のHPにガイドラインが掲載

○避難情報の改定

→ 避難指示（緊急）と避難勧告が「避難指示」に一本化

警戒レベル1～2で準備、3～5で行動

※行動したが、空振りでも良かったと言える施設の環境づくり

必ずその行動（訓練）した経験が役立つ日がくる

○特例通知 ※年々通知の発出が早くなっており、熱海の土砂崩れの際には当日発出

→ ショートステイの長期利用や定員超過でも減算されない 等

○福祉避難所の確保・運営ガイドラインの改定（内閣府） ※当該行政の考え方を確認

→ ・指定福祉避難所の指定及び受入対象者の公示

・指定福祉避難所への直接の避難の促進

・避難所の感染症・熱中症・衛生環境対策

・緊急防災・減災事業債等を活用した指定福祉避難所の機能強化

・医療的ケアを必要とする者も対象

・災害救助法が適用されない場合でも福祉避難所の開設が可能になったが、  
その場合の費用負担は要確認

○個別避難計画（マイタイムライン）の作成

→ 現在、事前に要配慮者の調整を行い、直接福祉避難所に避難する動きが出ている

○在宅避難の増加

→ コロナ禍により、在宅での避難者が増えている。指定避難所の密は避けられるが、  
避難者が把握できないケースがある。

○DWAT

→ 都道府県によって、福祉避難所での活動をメインに考えているもの、福祉施設の  
相互応援の仕組みも含むものとして考えているところがあり、統一出来ていない

○厚生労働省のマッチングシステム

→ 被災県からの要望、他県からの支援申し出を厚生労働省がマッチングし、  
被災施設に職員を派遣する

※自施設として外部支援者を受け入れる体制を整える

※自施設の職員のみで対応した施設ほど、その後に大量退職になるケースがある。

職員も被災者であるということも忘れてはならない。

○避難確保計画の作成及び避難訓練の実施が義務付け

→ 自施設の水害、土砂災害、津波の区域を確認

※根拠となるもの（ハザードマップ）に掲載されている最大規模の想定をしていないと、  
最悪、訴訟問題になってしまったケースもある。

（その前に・・・国の流れや過去の災害から）【過去の災害等から】

○災害関連死

→ 熊本地震（平成 28 年）約 220 名 / 西日本豪雨（平成 30 年）約 80 名

○災害時でも事業継続

→ 通常の企業であれば、災害時には一旦事業停止や縮小が出来るが、

福祉施設では事業を停止出来ない（例）今回のコロナで福祉施設は止まったか？

○事前準備（必要な物資やツール、仕組みや協定など）

→ 事前に想定できる部分は対策をしておく。

想定外をいかに少なくするか = 災害自体は防げないが、減災につながる

### ○BCP策定のプロセスが大切

→ 正解・不正解はないので、どのような協議、プロセスで策定されたのかが大切  
職員全員が主体的に取り組むことが職場のOJTとなる

### ○地域との連携体制

→ 平時からの近隣施設や地域とのつながりが必ず災害時の取組みにつながる  
地域との役割分担をすることで、最初は避難者であった地域の方が支援者になる

### ○災害対策本部

→ 指揮命令系統の確認

情報共有（誰もが同じ情報を見れることで安心感になる、余計な問合せが減らせる）

職員の参集状況（施設入口に名簿を貼って○を付ける、状況を記載するだけでも  
一目瞭然になる）

内部・外部の調整（施設長や事務長だけではやりきれない場合もあるので、自施設の  
職員や外部職員をサポートに付ける）

○福祉避難所は様々なパターンがある ※改定を受けて、当該行政の考え方を確認

- 
- ・社会福祉施設が行政から受託する
  - ・総合体育館や公民館等を使用する
  - ・宿泊施設を利用する
  - ・指定避難所の一室に福祉スペースを設置
  - ・特別支援学校等を活用する

○福祉施設（福祉避難所）は病院ではない

→ 福祉施設や福祉避難所を「病院」にしてはならない。  
あくまでも「生活の場」であることを忘れない。

○新型コロナウイルス感染症と福祉施設（福祉避難所）

→ 避難者の受入れにあたってのPCR検査やワクチン接種の有無等は事前に要確認  
※事前にどれだけ福祉避難所の受入対象者を公示していても一定数の駆け込みが  
いることは想定される = どう対応するか考えておかなければならない  
（対応時に理事長や施設長、事務長が必ずしもいるとは限らない）

### ◎労務管理

→ 災害時でも職員の労務管理を疎かにしない。

職員の安否確認をしなかった結果、他の職場に転職してしまったケースがある。

自施設（法人）の職員に対する考え方が表面化してしまう

（例）「○日間何も職員から連絡がなければ、自宅訪問や指定避難所訪問」と記載して  
おくと、職員が大切にされていることが伝わる

## 2 人材プロジェクト委員会

### (1) 委員会等実施状況

第2回 / 7月28日(水) 14時～

※オンラインとオフライン(エポック中原6階研修室)による同時開催

### (2) 協議概要

#### ①ハローワーク「福祉の仕事」説明会

担当委員：小林施設長(新緑の郷)、神田施設長(生田広場)

・ハローワーク川崎

会場：ハローワーク川崎

日時：~~①8月30日(月) 13時30分～15時~~

※中止

②10月22日(金) 13時30分～15時

環境：8月1日以降、ZOOM用PC・ポケットWi-Fiが使用可能になる

・ハローワーク川崎北(新)

会場：エポック中原

日時：10月11日(月) 午後

#### →参加施設は公募

#### ②人材に関する研修について

総合リハビリテーションセンターで、各機関等が実施している研修を一覧に取りまとめ予定のため、一覧が完成次第各施設へ案内。

#### ③高校(キャリア教育担当)へのアプローチ

経済労働局で紹介された市立高校へのアプローチのため、川崎市総合教育センター担当と打合せ予定。

担当委員：荒川施設長(ひらまの里)、平山施設長(鷲ヶ峯)、山下所長(福祉人材バンク)

#### ④外国人介護人材説明会または情報交換会

10月頃を目途にアンケートを実施し、説明会または情報交換会のニーズを調査。必要に応じて説明会または情報交換会を企画。

⑤介護人材確保のための各種広報について

福祉人材バンクが作成した「介護のシゴト」リーフレットを行政各窓口にて再度配架依頼。  
また、かわさき FM での広報を検討。

⑥市立川崎高校定時制生徒の企業訪問について

訪問日時：11月19日（金）10時～17時

対象生徒：市立川崎高校定時制1年生70名のうち、受け入れ可能な人数

訪問内容：企業見学、企業説明、若手社員からのお話、生徒からの質疑応答など

訪問企業：市内企業7～10社を予定

**第3回実行委員会：9月14日（火）午前10時～ 会場：エポック中原6階研修室・オンライン**

神奈川県社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会  
各課題別プロジェクト会議の進捗状況報告について

### 1 災害対応プロジェクト会議

(1) メンバー

牧田施設長（多摩川の里）、平本施設長（すえなが）、見原施設長（ビオラ川崎）

(2) 会議等

日 時： 月 日（ ） 時～

会 場：

内 容：

### 2 人材確保対応プロジェクト会議

(1) メンバー

古敷谷施設長（大師の里）、依田施設長（金井原苑） ※磯野会長担当プロジェクト

※次回から依田施設長に代わり岩壁副施設長（等々力）

(2) 会議等

日 時：7月14日（水）午前10時～

会 場：神奈川県社会福社会館

内 容： ①無資格・未経験者へのアンケート結果について

②今後の検討課題について

### 3 介護報酬改定対応プロジェクト会議

(1) メンバー

清水施設長（夢見ヶ崎）、白井施設長（富士見プラザ）

(2) 会議等

日 時：5月31日（月）午後1時30分～午後3時30分

会 場：神奈川県社会福社会館

内 容： 1 リーダーの選任について

2 令和3年度介護報酬改定等に関する動向について

3 実態調査に関する各ブロックでの取り組み状況について

4 プロジェクトの方向性について

5 その他

第 56 回関東ブロック老人福祉施設研究総会・  
第 19 回かながわ高齢者福祉研究大会合同大会 発表施設

1 関東ブロック老人福祉施設研究総会

|   |     |                           |
|---|-----|---------------------------|
| ① | 施設名 | 特別養護老人ホーム 金井原苑            |
|   | 発表者 | 伊地知大、南部一貴                 |
|   | 演題  | 金井原苑の看取りと新たな取り組みについて      |
|   | 副題  | 14 年という看取り経験から培ってきたもの     |
| ② | 施設名 | 特別養護老人ホーム しやんぐりら          |
|   | 発表者 | 田嶋裕一郎                     |
|   | 演題  | インドネシアからの技能実習生            |
|   | 副題  | 数字よりも大きな効果をもたらしている 5 人の笑顔 |

2 かながわ高齢者福祉研究大会

|   |     |                              |
|---|-----|------------------------------|
| ① | 施設名 | 特別養護老人ホーム 潮見台みどりの丘           |
|   | 発表者 | 内田裕久、相澤作宗、唐澤清                |
|   | 演題  | 開設 10 年、よりよい環境にしていくために       |
|   | 副題  | ～働きやすい環境で、良い介護サービスを。～        |
| ② | 施設名 | 特別養護老人ホーム レジデンシャル百合丘         |
|   | 発表者 | 外池永尚、奥村勇太                    |
|   | 演題  | ニーハオ！日本の介護を学びに来ました！          |
|   | 副題  | ～中国からのインターンシップ生を受け入れて～       |
| ③ | 施設名 | 特別養護老人ホーム 新緑の郷               |
|   | 発表者 | 西久保早苗                        |
|   | 演題  | 皆でつくる栄養ケアマネジメント              |
|   | 副題  | ～入居者と家族の想いを込めて～              |
| ④ | 施設名 | 特別養護老人ホーム 幸風苑（幸風苑地域包括支援センター） |
|   | 発表者 | 白石藤大、常盤秀樹                    |
|   | 演題  | 歯科医師とケアマネの連携推進プロジェクト         |
|   | 副題  |                              |
| ⑤ | 施設名 | 特別養護老人ホーム 多摩川の里              |
|   | 発表者 | 山中悦子、坂井英明、大熊照美、斎藤るみ          |
|   | 演題  | 認知症カフェは誰にでも開かれた交流の場          |
|   | 副題  | ～「ほっこりカフェ」の開催と継続のために～        |